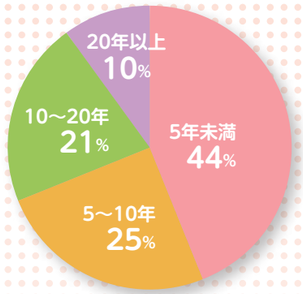
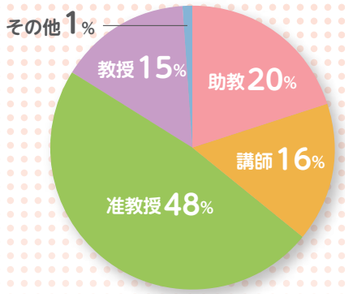
高専女性教員の皆さんに聞きました

アンケート回収率 70%
女性教員数368人／回収259人

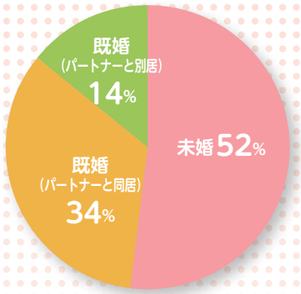
勤続年数



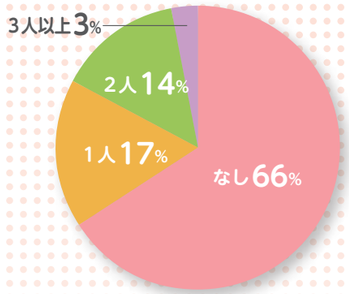
職　名



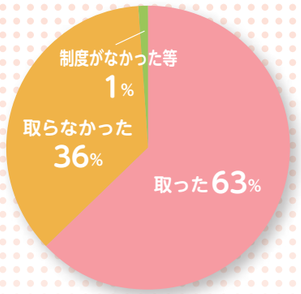
結　婚



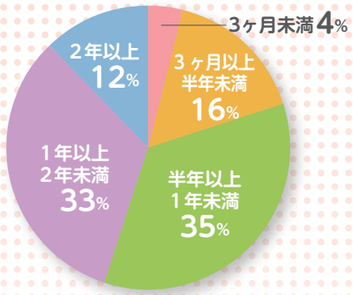
子　供



育休(子供のいる方のみ集計)



育休期間(複数回答)



Q1 高専の教員になって、よかったと思った(思える)ことは何でしょう？

- 学生との距離が近く、学生の成長を目の当たりにできる。自分も学び、成長しているように感じる。
- 学生たちが卒業しても訪ねてきてくれたりして、長いつきあいができること。
- 教育と研究、両方に携わることができる。力のかけ方はある程度自分で決められるので、どちらかを諦めなくてもよい。
- 学生が「理解したときの嬉しさ・喜び」というのを実感できる。(大学生は既に興味があってきている集まりなのであまりそういうことは感じられない)
- 自分が考えていたよりも教育が楽しい（向いている）とわかった。
- 職の階級にとらわれず、自由に意見が言える。
- 多彩な分野、職歴の教員がいるので、刺激を受けることができる。
- 任期や転勤がないので、腰を落ち着けて仕事ができる。
- 受験のための教育をしなくて済む。また、自由な発想や教材を用いて授業展開ができる。
- 仕事の時間配分やペースを自分である程度決められる。
- 身分や経済状態が安定したこと。
- 異分野の教員と連携して研究に取り組むことができる。
- 自分の好きな研究が続けられる。

Q2 研究を進めるにあたって、感じていることはありますか？(大学との違いや環境、学会活動を含め)

- 教育の割合が高く、また大学にはないような研究以外の業務が多いので、なかなか研究に時間を割くことが難しい。
- 卒研生の数が少なく、先輩から後輩への縦のつながりもないので、研究の引き継ぎができない。専攻科生がいれば、ある程度のパフォーマンスは期待できる。
- 教員も忙しいが、５年生も卒研に充てられる時間が少なく、研究に充てる時間が不足している。
- 研究以外の教育や校務が優先されるので、大学院レベルの研究がしたい人や最先端の研究をしたい人は高専には向かないと思う。
- 数のパワーがないので、一人でもできるテーマ、隙間を狙うテーマの設定が必要。
- 助教であっても独立して研究を行える点はいいが、研究室の運営すべてを自分でやらねばならない。
- 周囲に同じ専門分野の人がいないので、相談できる人がいないし、文献や機器などをそろえることが難しい。
- 学期中の学会の参加は、土日の開催であったり、授業変更が可能であれば参加できる。
- 研究費が少ないので、外部資金の獲得に積極的になれる。資金、施設設備、情報、時間、人材などの制約のある中でどのように工夫して進められるか、アイデア力が試される。

Q3 仕事を続けていく上で、悩みはありますか(ありましたか)？また、それらについては、どのように解決されましたか？

- 子育ては、実家のサポートを受けながらなんとかこなしてきたが、子供との時間が少なかった。
- 両親の協力が得られないため、子供が体調を崩したりしたときに、どう対処するかは常に悩みの種である。
- 介護をしながらの仕事は大変。自分の体調を崩さないようにして、授業に穴を開けないようにしている。以前に比べれば職場では介護に対して配慮をしてくれるようにはなってきた。
- 子供ができると、残業ができなくなる上に自分の時間も思うようにとれず、かなり戸惑った。夫や親の協力があるのはありがたいが、自分でも短時間で効率よく仕事をこなすよう努めている。
- 育児といろいろな仕事が回ってくる時期が重なってしまい、思うように仕事に時間が使えないジレンマがあった。配偶者に状況を説明して協力を求めたり、職場でも理解を求めた。
- パートナーと離れた生活をしているので、土日ぐらいは一緒に過ごしたいと思っているが、部活動や日直、公開講座などでなかなか思うようにはいかない。
- 思ったように仕事や研究のための時間をとれないこと。研究支援員配置事業を活用して、文献調査やデータ整理などの仕事を支援してもらっている。
- やらなければならない仕事が多岐にわたり、精神的に参ることがある。信頼できる人に相談しつつなんとか乗り切ってきた。
- どのタイミングでライフイベント(結婚・出産など)を迎えるか。学科の理解とサポートが必要。
- 価値観の違う男性方に困っている。男性は仕事第一だろうが、女性はそうでもない人もいるし、仕事第一にしたくてもいろいろな家庭事情がそれを許さないこともある。

Q4 仕事とプライベートを両立させるために、工夫していることはありますか？

- どうしたら両立できるか、現在模索中。
- 優先順位の高いものから順次片付け、できないことはしかたがないと割り切る。
- 勤務時間内に仕事が終われるように、段取りを考え、集中して仕事をしている。
- 家庭では仕事はしないでママを頑張る(家族のための時間)、職場に来たら仕事を頑張る(自分の時間)とメリハリをつける。
- 仕事を家に持ち帰らない。休むと決めたら、仕事をしない。
- 理解のない同僚の雑音にいちいちまどわされないようにする。
- 無理をしない。完璧を目指さない。
- 便利な家電製品は大いに利用して時間を捻出する。
- 家族でコミュニケーションをとり、夫婦で互いの予定を把握する。
- 家事は手抜きをする。
- よく話し合い、配偶者や周囲の理解と協力を得る。
- 健康を最優先させる。無理をすると両方に影響が出てしまう。
- ファミリーサポートセンターなどの利用できる制度は積極的に利用する。
- 発散方法をいくつも持つ（スポーツ、旅行、映画等々）。